

単位数	2	学科(型) 学年	電気システム科 2年(電気型)	教科書 副教材等	精選電気回路(実況出版)
学習目標		1 電気に関する基礎的な知識と技術を習得する。 2 習得した知識と技術を実際に活用できるようになる。			
学期	学習内容			学習のねらい	
1	第5章 交流回路 1 正弦波交流 2 複素数 3 記号法による交流回路の計算	・周波数、周期、位相について理解する。 ・複素数を用いた交流回路の取り扱いについて、計算を中心に、定着に努める。 ・記号法を用いた回路計算について理解を深める。			
2	4 共振回路 5 交流回路の電力 6 三相交流	・有効電力と力率の関係を身近な例によって理解する。 ・消費電力、力率、皮相電力、無効電力及び無効率などに関する物理的な意味を理解させ、それらに関する計算を理解する。 ・三相交流がどのようにして発生するかを理解する。			
3	第6章 電気計測 1 測定量の取り扱い 第7章 1 非正弦波交流 2 過渡現象	・国際単位系、標準器、誤差、有効数字などについて理解させる。 ・非正弦波の波形、その成分、分解や合成などの考え方について理解させる。			
評価の観点		内 容			
知識・技術		・電気の諸現象に関心をもち、学習に意欲的に取り組み、学習態度が真剣である。			
思考・判断・表現力		・いろいろな電気現象がなぜ起こるかを自ら学び、自ら考えることができる。また、基礎的・基本的な知識をもとに電気現象を数学的に考察し、表現することができる。 ・電気に関する諸量を測定するための基本的な技能をもっている。また、実験で得られた測定値をグラフに表し、そのグラフから変数の関係を数式で表すことができる。			
主体的に学習に取り組む態度		・電氣的諸量の相互関係を理解し、それらを式の変形や計算により求め諸問題の解決を目指して、主体的に学習に取り組もうとしている。			
評価方法	学習の状況は、「出席の状況」、「授業中の態度」、「提出物(ノート・プリント)」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。				
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項					
○ その日の授業で分からなかったことは、その日のうちに質問しにくること。 ○ 授業では、見る・書く・考える・を通し、一層高みのある勉強方法を身に着けること。 ○ ノートをとる際は、必ず色分けをして板書事項を写すこと。 ○ 例題を解くときは、答えが書かれてから写すのではなく、正答しなくてもよいので、必ず自分で解き、間違いから学びを通じて学習濃度を上げること。					